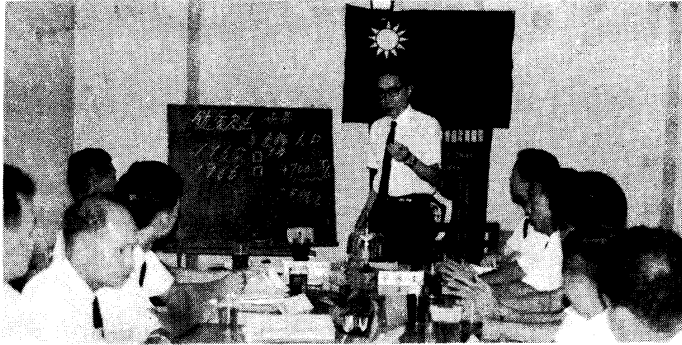


昔“気ちがい”、今“公害博士No. 1”、

## 週刊現代

昭和46年6月3日号  
掲載記事抜萃

# 終戦直後から農薬の恐怖を叫び続けた 医師が大学に日本初の公害講座を開くまで



台湾、米国などで高倉氏はいまや救世主扱いだ

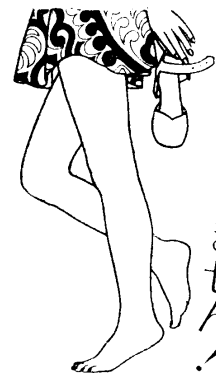
敗戦の焦土に復員した元軍医は、米軍が使う殺虫剤D・D・Tにショックを受けた。農薬としても使用されるD・D・Tの製法が、自分の研究していた毒ガスのそれと同じだったからだ。田園は荒廃し、人体が侵されるという一開業医の告発の叫びは、無視され、圧迫を受けた。そして二十五年……。ここには、赤貧に耐え、信念を貫き通した男の歴史がある。茨城大教養部・公害講座講師・高倉熙景。五十九歳。

## 街医者者が大学に招かれて

「茨城大学では四月の新学期から、教養部の講義の中に『公害講座』を新設した。これは、県内の鹿島、日立に大工場を持ち、年々深刻化している公害問題に、大学側が積極的な姿勢を示したものだ」（読売新聞・四月二十八日）

だが、この時流をふまえたトビックスの陰には、苦節二十五年、多くの無理解、妨害に耐えながら、ただ一筋に農薬公害を訴え続けてきた男の、涙のドラマが秘められていた。

この日本初の公害講座の主任講師に迎えられたのは高倉熙景（医博59）。ハタ目には水戸市河和町の一開業医にすぎない。「人なつっこいマジメ人間で、



靴を脱ぐだけでは治りません！

痛いウオノメ  
気になるイボ・タコ  
ソコマメがとれる！

ニハンスピール膏

痛さを忘れる ソフトパッド付

1箱 150円

ち込んでいる学究タイプ」（医学博士会理事長・糸川欽也氏）と評される高倉氏は、残留農薬の人体への影響研究をライフワークとして取り組み、その二十年間の研究データをもとに、『農薬有害論』を説いてきた。

この『高倉理論』の骨子を、簡単に説明するところなる。『農薬で植物を守っているのは、いつまでたっても強い植物は育ちません。それはばかりか農薬の残留毒が後日、必ず人畜に害を与えるようになります。そこで強い植物を育てるには、土壌に十分なミネラル（鉱物質）を与えて、植物の根を強く育てる以外にはないのです。ミネラルを多く含んだ強い植物を食べれば、人間も必然的に健康で耐久力が

強くなるのと同じ道理じゃありませんか」（高倉氏）

こうして、わが国ではじめて医学と農学の協調を説いた『高倉理論』によって、すでにミネロンと呼ぶ鉱物質のミネラル肥料が作られ、水稻、野菜、タバコ、イチゴなどの改良に大きな成果をあげている。

いまでは高倉氏も、国際農薬学会会長として、遠く海外にまで知られるその道の第一人者だが、歴史がつねに証明しているように、先駆者の歩んだ道はけっして平坦ではなかった。

農薬禍を叫ぶようになってからこの二十五年間、高倉氏の周辺には、いわれのない中傷と目に見えぬ農薬メーカーの妨害が渦巻き、高倉氏を悩ませてきた。水戸中学（現水戸一高）、昭和医大を通じて、彼の一年後輩



戦後26年めにして高倉氏の研究は認められた

# 昔「気がおがしい」 今「公害博士」No.1

にあたる沼田勇氏（静岡県・大仁町・大仁医院院長）によると、学生時代の高倉氏は、「乗馬が得意のスポーツマンで、たいへん女性にモテて」、「勉強するタイプの人にはみえなかった」という。だから専門誌などで、「研究者・高倉淵景」という名

前をみても、とても同一人物とは思えなかった。昔のイメージとはまるで違っていたからだ。それほど勉強家でもなかった高倉氏が、「真摯な研究者となり、たくましい学者に豹変したのも、毒ガス研究で人間が変わったため」（沼田氏）という。

その後、終戦に至るまで、高倉氏の軍人生活は、化学兵器の研究に追われつづけた。だが、毒ガスを手がけていたおかげで、戦後いち早く高倉氏は、農業公害を唱えることになる。最初に衝撃を受けたのは二十一年十二月、大陸から引き揚げてきて博多に入港したときだ。

一年十二月、大陸から引き揚げてきて博多に入港したときだ。

昭和三十二年四月、陸軍軍医少尉として、習志野騎兵隊に入隊した高倉氏は、ただちに陸軍病院付きになり、化学兵器研究を命じられた。

毒ガスの研究は、イペリットのほかにもいろいろ多岐にわたっていた。タバコを一服すうと一瞬にして死ぬという青酸ガスの実験、神経を麻痺させるD・D・T（有機塩素）、粘膜を刺戟して血液の変化をおこさせ、つ

港へ着くなり、保健所の防疫係官がやってきて、引揚者の顔からツマ先まで真っ白い粉をふりかけた。見るとシラミやノミが一度で死んでしまう。何だろうと思って、高倉氏が白い粉の入った容器を調べてみると、

当時、アメリカもドイツも毒ガスの研究に拍車をかけていたが、日本の毒ガス研究は、世界でも最高水準にあった。たとえばイペリット。別名糜爛ガスと呼ばれるこの毒ガスは、人間の皮膚に付着してただ

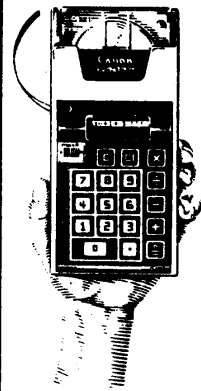
れを起こし戦力を低下させる大きな効果がある。大学で皮膚科を専攻していた高倉氏が、このイペリットの研究で重宝がられたのも道理だ。

GINZA  
モネクタイ  
ネクタイ  
Yシャツ  
ポロシャツ

ポケットロニク語録

# 画龍点睛定数計算

定数乗除算つきのポケットサイズ。夢の……と呼ばれた画期的なメカニズムです。12桁でしかも記録式。もちろんコードレス。出張に会議に商談に……オフィスを離れて活躍中です。



コードレス 記録式 12桁で定数乗除算つき

**¥87,000**

ハイスピード・チャージャー20A (急速充電器) ¥ 8,500

サーマルプリント・テープ ¥ 350

## Canon

## ポケットロニク

電子ポケット計算機

キヤノン事務機販売株式会社  
 本社/東京都港区芝公園12号地 電話105(03)432-8251  
 大阪(06) 202-6761 名古屋(052)231-7131  
 福岡(092) 41-2394 仙台(022)27-2378  
 札幌(011)251-7075 広島(0822)28-3203  
 福岡(072)21-2762 静岡(054)53-5244  
 新潟(0252)45-5366 横浜(076)63-7186  
 京都(075)241-3865 高松(0878)31-1365  
 横浜(045)211-0953 沖縄(098)43-1111

D・D・Tの化学方程式が書いてあるではないか。

高倉氏は啞然とした。それも道理で、日本軍が開発した毒ガス資料が、戦後、極秘裏に米國へ持ち去られ、人を殺すために開発された薬品が農薬として開発され、さらに殺虫剤としていま、目の前に現われたからだ。

「こんなものをいつも身体にかけられたら、と思うとおそろしくなりました。これは神経を麻痺させる薬品ですから、手足がしびれてくるのです。農薬がこんな使い方をされていると、十年、二十年後には、農薬の害が社会問題になるだろうと思いましたが」

この時の不吉な予感を、高倉氏はこう語っている。

ところが、こうした化学兵器専門家への恐怖感とはうらはらに、農薬の毒は日本の土壌に次

第に浸透していった。

戦後の日本では、D・D・Tをはじめとする多くの農薬使用が、食糧増産という勇ましいカケ声のなかで、急速にエスカレートしていった。復員医師の警告になど、耳を貸すものはいない。農林省の役人も農民も、増産ムードに酔っていたからだ。

そこで高倉氏は、農業公害の警告と対策の道をひらく研究を続けていく決意を固め、まず郷里に戻って、外科、神経科の開業医として再スタートをきった。

高倉氏が患者の診療を通して発見したのは、日本人の驚くほどの体力低下であった。これはミネラル(鉱物質)の欠乏により、人間が弱体化している証拠だと判断した高倉氏は、さっそく、ミネラルを作物に応用する研究に着手した。

これは一石二鳥の効果をもつ

ている。つまり人間の栄養向上に役立つばかりか、農薬を使用する必要のない植物を育てれば、有毒物質の人体への混入を防止することができるからだ。

「最初、高倉先生に話を聞いたとき、農業や林業を医者を目でみるというその斬新な着眼に感心しました。それまで、土壌のことにまで研究する医師はいなかったんです(農林省農事試験場・高瀬経道氏)。

「鉄、マンガンなどの無機元素類の研究資材は、人体には特級品を使わないといけないので、とても高くつくんです。それに吸着させるための粉剤(カルシウムなど)は、一キ単位では売ってこない。これが何百種類もそろってないと、取捨選択ができるいい実験資材ができないんですよ(高倉氏)。

## バカ医者といわれ続けて

医学の先駆者として、高倉氏がまず闘わねばならなかったのは「貧困」である。

県の医師会に出かけると、みんな背広と外套を身につけ、ピカピカ光ったオートバイに乗ってやってくる。高倉氏はと見れば、引き揚げの際もらったカーキ色のズボンとジャンパー、靴は将校長靴を半分にチョン切った粗末なモノをはき、往診用に四千円で買ったポロ自転車をもつ

走らせてくるという具合だ。こんな見すばらしい格好が七年間も続いた。むろん家族も同様のこと、妻の乃信さんはモンペ一つで押し通し、長女の敦子さん(現在日航勤務)は、黒く染め直した軍服とほかの布地を継ぎ合わせてつくった「晴れ着」で、幼稚園へ通っていた。

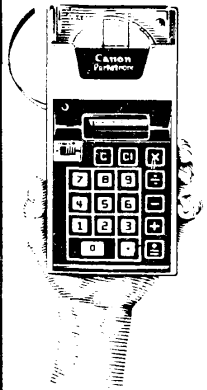
これほど生活をきりつめねばならなかったのは、収入の大半が研究費にとられてしまったか

そればかりではない。試験場や農家に実験を頼みに行くための交通費、お土産代、研究用のカメラ、スライドなど、金はいくらあっても足りないくらいなのだ。しかも「高倉先生は損得ぬきで、困った人にはタダで診てやる潔癖な人柄(『いはらぎ』新聞営業局長・塩沢永氏)』というのだから、この貧困状態から脱け出せるはずはなかつた。

ポケットロニク語録

古来 仲人のことを月下氷人と呼びます。ところで計算機にペンとノートを縁ぐみさせたのがポケットロニク。演算過程の記録つき。12桁電池内蔵 定数計算のできるポケット判です。

# 月下氷人記録式



コードレス 記録式 12桁定数乗除算つき

**¥87,000**

ハイスピード・チャージャー-20A (急速充電器) ¥ 8,500

サーマルプリント・テープ..... ¥ 350

**Canon**

**ポケットロニク**

電子ポケット計算機

キヤノン事務機販売株式会社

本社/東京都港区芝公園12号地 千105(03)432-8251  
 大阪(06) 202-6761 名古屋(052)231-7131  
 福岡(092) 41-2394 仙台(022)27-2378  
 札幌(011)251-7075 広島(0822)28-3203  
 札幌(0272)21-2762 静岡(0542)53-5244  
 新潟(0252)45-5366 金沢(0762)63-7186  
 東京(075)241-3865 高松(0878)31-4365  
 横浜(045)1211-0953 カタログ型WG係へどうぞ

だが、貧しきはまだ耐えられた。研究者といえども人の親、「子どもたちに対する中傷だけは骨身を削られるように辛かった」(高倉氏)という。

往診を断わったこともなく、他人に恨まれる覚えはないもない。病人が出たと聞けば、遠い田舎道もいとわず、ボロ自転車のペダルを踏んで駆けつける。それなのにどうして周囲の人々は、高倉一家を白眼視したのだろうか。

子どもが幼稚園からバスで帰るとき、「あれがバカ医者の高倉の娘だ。医者をやらずに肥料のことばかりやっておる」と、意地悪な視線を浴びせながらささやきあう。

「なぜお父さんはバカ医者なの？」——子どものそんな素朴な質問に、父親の胸は痛んだ。苦しい時こそ、家族が団結せね

ばならぬと考える高倉氏は、「世の中にはいろんな人がいてね、いろんなことをいうけれど、お父さんはけっしてバカではない。そのうちきつと、人の役に立つ仕事をするからね。大きくなったらわかるようになるよ」と、子どもに説き聞かせたものだ。

こうした文字通り辛酸をなめた。

そのころ農村では、戦後の増産ムードで農業を使い過ぎた厄災めが、ボツボツ出はじめていた。このため高倉氏の考案したミネラル肥料は、にわかに脚光を浴びるようになり、鹿児島、静岡など全国にその研究会までできるやうにさえた。

ところがある日突然、農林省肥料検査所課長がやってき

## 苦心の新肥料も暗礁に……

るが如き生活のなかで、高倉氏が鉱物質のミネラル肥料を完成したのは、昭和二十七年のことだ。事実、これで、高倉氏の「農業害絶滅の悲願」が果たせるかにみえた。

が、好事魔多しという。そのため一時は高倉氏も研究を放棄したほどの、とんでもない不運が待ちうけていたのだ。

て、「肥料販売法違反で厳罰に処す」というのだ。

「規則では売れないものを売ったというのだが、あれは明らかに肥料メーカーの妨害」(糸川氏)といわれるが、高倉氏にとっては、まさに青天のへきれきともいえる痛恨事だった。

さすがの高倉博士もこのときばかりは意気消沈した。

「刑事問題にまでなつて、衝撃をうけたんでしょね。すっかり弱気になって『こんなに圧迫されるのならもうやめたい』とくるたびに泣いていました。『そんなことでくじけるな』と励ましたんですが」(糸川氏)

事件は二年後に、結局、五万円の罰金を払っていちおうの決着はついたのであるが、これで新薬をめぐる環境が再び暗転してしまつたのだ。

高倉氏が新肥料の製造をまかせていた親戚の某氏は、責任を転嫁していち早く逃走。票田を獲得するため、農民を集めたから話をしてくれ」と高倉氏に接近してきた市議も県議も、とたんに冷淡な表情をみせた。

この間、高倉氏の最大の協力者であった高倉医院婦長の清水一子さんは、医博の当時の苦悩ぶりをこう語る。

「役人がきたあと、潔癖な先生は研究をやめるといわれて、いままでも苦勞して集めた資料を全部焼けど命じらんです。人のためになることを、手弁当でやった結果がこれでは、もう先生がお気の毒で……でも命じられたとおり、資料は全部焼いてしまいました。五右衛門風呂に水をはり、煮えたりしたら何回も水を足して、泣きながら焼いたんです」

この事件で、研究が二年間頓挫したものの、援軍が意外なところから現われた。熊本県立鏡水産試験所の太田扶桑夫氏(農林技官)だ。

このころ、高倉氏が開発した「のりイオン」を使用、有明海でのりの養殖に好成績をあげていたのが佐賀県の農業・白土俊実氏。この実例を聞き及んだ太田氏は、海上に肥料法はないか

ら、このり養殖に対する試験を成功させてやろう」と、高倉支援をかって出たのだ。

そのうちこのミネラル肥料は海外で認められ、肥料王国のアメリカにまで輸出されるようになった。D・D・TやB・H・Cなど、戦後アメリカから輸入された農薬を逆手にとりて開発された薬品が、皮肉にも、アメリカの農業公害を救うことに役立つようになったわけだ。

一陽来復とはこのことで、高倉氏の周辺は、にわかにも明るさが増してきた。『高倉理論』の共鳴者が、続々と現われてきたのだ。

林野庁・研究普及課の脇元裕嗣氏(普及班組織係長)も、その



実践の人、高倉氏には多くの農民の信奉者がいる

「あれは四十三年でしたか、樹苗の生産地の大分県肥田にある菅林署にいた頃です。以前から高倉先生の理論に共鳴していたので、それを一度実証したいと思っただけです。そこでミネラル肥料を杉の差し木に使ってみたところ、成長がすばいんですね。普通、根付きするのに四年はかかるんですが、それがわずか一年、しかも根がワツと出てくるんでビックリしました」

共鳴者の一人。おりから、農林水産技術会議事務局で出している機関誌(『研究情報』)にも、高倉氏の研究記録が発表された。なにしろ年間予算百八十億円をもち、日本の農業政策決定に重大な役割を果たすといわれる機関で出しているのだ。

### 変人が郷土の誇りに

こうして、『高倉理論』が海外で認められ、土壌専門家の間で脚光を浴びるようになる、彼を変人扱いしていた地元でも、にわかには評価が変わってきた。そして今年の一月十七日には、高倉氏の実績を伝え聞いた岩上二郎茨城県知事が、彼の『農業公害絶滅の理論』を聞くため、高倉氏を訪ねたのだ。

県知事に同行した川俣勝慶氏(県秘書課主事)によると、

「先生にお会いして、知事は感銘を受けてくれました。県でも農業公害の絶滅に積極的になり組もうと、研究機関で高倉理論を研究してみたらということになり、すでに農林部に申し渡されています」といふ。

さらに、腰の重いお役人仕事にハッパをかけたのは、県会議員の渡辺太郎氏(弁護士)。三月の県議会で、高倉先生に研究費を援助したらどうか」と、岩上

る研究誌だ。研究者にははげ舞台である。

「たしかに、農林省として高倉先生の研究を真っ正面からとりあげて、紹介したのは、初めてでしょうね(同事務局、浅井昭三氏)

知事に迫ったのだ。

「私は先生にお会いしたことはありませんが、あっちこっちの農民からすばらしい研究だ、と聞いていましたのでね。農業公害のかくれた研究者を、県はもっとバックアップすべきだと考えたわけです(渡辺氏)

こうして、「わたりをつけてやらなかったことが、農林官僚の反発を買っている」(『いはらぎ』新聞・塩沢営業局長)にせよ、岩上知事の号令のもと、『高倉理論』の研究に県も動きはじめた。

県衛生部の藤崎米蔵部長は、「すでに農林部に追試をやるよう話し、謙虚に検討をはじめていきます」と語り、その農林部でも「追試のための予算を六月の補正予算に提出する予定」(教育普及課)という。

ボロ服をまとった変人の町医者は、いまや「郷土の誇り」(渡辺氏)に、変身した。そして茨城大の公害講座の主任講師として、教壇に登った日、この苦しい二十五年を顧みて高倉氏は、いったいどんな感慨だったのだろうか。

いま高倉氏のもとには全国の農民団体、自然食グループからの講演依頼が殺到。さらにアメリカ、台湾、韓国など、海外からの招聘も相次ぎ、彼が二十六年前に予言した農業公害の中で引っぱりダコの多忙ぶりだ。

が、そんな忙しきをおして、「明日は羽田空港へ娘を出迎えるに行く」と、顔をほころばす友だちと四人、ヨーロッパ旅行に出かけた長女の敦子さんが、帰国するのだ。

海と緑とレインボーライン

定公園若狭湾・国際観光旅館  
海上風呂 ひろせ  
海ののホテル  
福井県美浜町 美浜 (07703) 2-1123